

非結核性抗酸菌症外来を開設しました

～京都初・生活に身近な、結核菌「以外」の抗酸菌感染の専門外来～

内科・呼吸器内科 医師 橋 洋正 (たちばな ひろまさ)

非結核性抗酸菌症外来の特徴

このたび、南京都病院では新たに「非結核性抗酸菌症外来」を開設いたしました。調べた限り京都では初の専門外来となります。

「抗酸菌」という菌のグループがあり、中でももっとも有名なのが結核菌です。非結核性抗酸菌症とは、結核菌「以外」の抗酸菌が主に肺に感染して起こる病気です。原因となる菌は、お風呂場やシャワー、台所の水回り、庭の土、池や沼など、私たちの身近な環境中にごく普通に存在しています。ほとんどの人には感染しないのですが、一部の方がこれらの菌を繰り返し吸い込むことなどで感染が成立します。結核とは異なり人から人にうつることは基本的にはありませんので、周囲への感染を心配する必要はありません。

近年、この病気の患者数は急速に増加しています。感染症法の届出対象ではないため正確な患者数の把握は難しいのですが、全国調査では2007年から2014年のわずか7年間で約2.6倍に増えました。死亡者数も増え続けており、2020年頃には結核の死亡者数を上回っています。最新の2023年の調査では罹患率が結核の2倍以上になっています。咳や痰、血痰などの症状が出ることもありますが、初期には自覚症状がなく、健診で偶然見つかる方も少なくありません。

結核と異なり確実に治る治療法が確立されていない菌が多く、治療も長期にわたります。治療終了後に再発する例や、標準治療が効きにくい難治例も多いのが現状です。当院ではこうした難治症例の経験も豊富です。当外来では最新の医学知識と技術や経験を活かし、一人ひとりの病状に合わせた丁寧な診療を心掛けてまいります。

患者さんへのメッセージ

かかりつけ医で発見されることも多いと思いますが、お気軽に紹介してもらってください。これまでの経過が診療にとって非常に重要ですので、できるだけ紹介状と過去の画像の持参をお願いいたします。